

# 視覚障がい者の一票を叶える「投票補助具」を県内の多くの自治体で導入実現

公明党 鈴木ひでし

私が昨年2月の県議会で提言した「視覚障がい者に配慮した投票環境の整備」について、昨年10月の「第50回衆議院議員総選挙」において県内多くの自治体で「投票補助具」が導入されました。で、ご報告いたします。

## 点字・代理に代わる方法を

県によると県内には約1万8千人の視覚障がい者がいらつしゃいます。この方々の投票参加を支える制度は、これまで

点字を使った「点字投票」か、誰に投票するかを第三者に伝えて代筆する「代理投票」の制度しかありませんでした。

この結果、昨年10月の衆議院議員総選挙では、県内33市町村中26の市町村が全投票所及び期日前投票所で「投票補助具」を導入しました。投票所数では県内約95%で導入されたこととなります。

点字器を使った「点字投票」か、誰に投票するかを第三者に伝えて代筆する「代理投票」の制度しかありませんでした。しかし、「点字投票」については点字触読の習得に一定の時間を要することもあって、全ての視覚障がい者が利用できるものではなく、また、「代理投票」は「誰に投票するか」を第三者に伝えなければならず、周囲の人に聞こえてしまうのではないかと不安な気持ちになる方もいます。さらに、人によっては他人に伝えること自体が投票にあたっての心理的な障壁になってしまいうことも想像されます。

この方々の投票参加を支える制度は、これまで点字を使った「点字投票」か、誰に投票するかを第三者に伝えて代筆する「代理投票」の制度しかありませんでした。しかし、「点字投票」については点字触読の習得に一定の時間を要することもあって、全ての視覚障がい者が利用できるものではなく、また、「代理投票」は「誰に投票するか」を第三者に伝えなければならず、周囲の人に聞こえてしまうのではないかと不安な気持ちになる方もいます。さらに、人によっては他人に伝えること自体が投票にあたっての心理的な障壁になってしまいうことも想像されます。

## 厚木の例を全県拡大へ提案

こうした中、一昨年の厚木市議会議員選挙でこの「投票補助具」が全投票所に設置され、7名の方が利用されました。

残る7団体についても、一部の投票所及び期日前投票所で導入済みの所があるとのこと、県選管としては、今年7月に予定されている参議院議員選挙に向けて、引き続き導入を働き掛けていくことです。

私が投票にあたっての心理的な障壁になってしまいうことも想像されます。

そこで私は、この「投票補助具」が他の自治体にも広がれば視覚障がい

者の方への大きな支援になると考え、県内全ての市町村でこの「投票補助具」を利用した投票方法を導入できるようにして欲しいと、県議会本会議で提案しました。



投票補助具の例



モットーは「まかせて安心!  
いのちと生活を守る!鈴木ひでし。」

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。厚生常任委員会、社会・健康対策特別委員会

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>

取り組んでまいります。